

郷土資料館だより

Vol.44 No.1
2021.7.15

三島市市制施行80周年・郷土資料館開館50周年記念 企画展「三島のはじまり 旧石器～古墳時代」開催！

- 開催期間 令和3年7月22日(木・祝)～12月19日(日)
- 会場 郷土資料館 1階企画展示室

三島市市制施行80周年・郷土資料館開館50周年を記念し、三島の成り立ちをテーマとする企画展を開催します。

約3万4000年前の旧石器時代から、3世紀半ば築造の向山16号墳(前方後円墳)をはじめとする向山古墳群登場段階までの歴史を、県・市が所蔵する考古資料を通して紹介する内容となっています。

楽寿園にお立ち寄りの際、ぜひご観覧いただき、郷土への関心をより一層深めていただければ幸いです。

本誌では、企画展で取り上げる遺跡の中から、箱根山西麓で営まれた縄文時代の集落遺跡についてご紹介します。



《縄文時代の箱根山西麓》

最終氷期が終わりを迎え、温暖化が進むと、人々は豊富に得られるようになった木の実などの植物質食糧を基本の食材とし、狩猟・漁撈で獲得した動物質食糧でこれを補うようになりました。季節ごとに得られるこれらの食材を組み合わせることで、旧石器時代のように獲物を求めて遠くまで足をのばさなくてもすむようになり、住居を構えて集落(ムラ)を営むようになります。

なだらかな斜面を特徴とする箱根山西麓では、縄文時代早期以降の集落遺跡が、尾根上の日当たりのよい南側に集中して確認されています。

●^{かん のん ぼら}観音洞B遺跡 —集落跡と祭祀儀礼の痕跡—

市内元山中の北東に位置する観音洞B遺跡は、昭和63年、グランフィールド・カントリークラブの建設にともなって調査されました。

標高410m前後に立地するこの遺跡からは、旧石器時代以降の人々の生活の痕跡が確認されています。縄文時代のものとしては、住居跡5軒が見つかりました。

出土した土器からわかる集落の形成時期

観音洞B遺跡で見つかった住居跡からは、縄文時代中期後半に関東地方西南部・東海地方・中部地方高地で分布が確認される、“曾利式”^{そり}という型式の土器が見つっています。この曾利式土器は、形状の変遷過程から1式～5式の5段階に分けられるのですが、本遺跡の住居跡のうち、3軒から曾利1式土器が、2軒から



▲観音洞B遺跡所在地

ら曾利3式土器が出土しました。これにより、本遺跡において、縄文時代中期後半の2つの時期に集落が営まれていたことが明らかとなりました。

住居跡から見つかった祈りの痕跡

観音洞B遺跡からは、左の写真のようなちよっと変わった住居跡が見つかっています。

写真は、曾利1式期の住居跡（外側の円）と、曾利3式期の住居跡（内側の円）とが重なって発見されたものです。曾利1式期の住居跡には中央部分に地面を掘りくぼめて火を焚く「地床炉」が、3式期の住居跡には四辺を石で囲った「石囲炉」が設けられています。

さて、注目していただきたいのは写真上方で、曾利3式期の住居跡の西側壁沿いに見える、石が積まれた部分です。

これは、8枚の板状の安山岩に、磨石（木の实などをすりつぶすのに使用する石器）9点、打製石斧（石材を打ち欠いて作られた土掘り具）6点を組み込んだ“石壇”で、長さ60cm・太さ17cmの安山岩製の石柱が南側に斜めに立てかけられたような状態で発見されました。この石壇は、祭壇のような役割を果たしたものと考えられていて、本住居跡は、住居内で祭祀が行われていたことを示す好例と捉えられます。

また、同じく曾利3式期の別の住居跡の西側からは、やはり祭祀用の道具と考えられる吊手土器が横倒しの状態で見つかりました。吊手中央にあけられた孔に紐を通し、火を灯して吊り下げて使用したと考えられる道具です。

このように、観音洞B遺跡の曾利3式期に営まれた集落跡からは、人々が行った祭祀の様子をうかがうことができます。



観音洞B遺跡 3・4号住居跡



石壇部分 拡大



2号住居跡出土 吊手土器
(市指定文化財)

自然環境の変化と祭祀儀礼の盛行

観音洞B遺跡に見られるような祭祀に関わる施設・道具は、同時期—縄文時代中期頃から列島各地で多く見られるようになりました。その原因として、この時期におこった気候変動の影響が指摘されています。

旧石器時代から縄文時代への移行を促した温暖化は、縄文時代前期をピークとし、そののちは小規模な寒冷化が進行していきました。気候の変化は周囲の景観に影響を与え、従来どおりの食糧確保を難しくさせたことでしょう。そうした状況は人々の心に不安をもたらしたものと想定され、その対策として、祭祀が盛んに行われるようになったのではないかと考えられています。

三嶋大社の古文書をよむ 第13回

◆北条時政による裁定文書

元久2年(1205)2月、鎌倉時代の古文書です。始めに北条時政の花押が書かれています。古文書の右端を「袖」、書き進める先の紙面左を「奥」と呼び、袖にある花押は「袖判」と称します。この花押で古文書の発給主体が北条時政であることを明示しています。

実際の差出人は、文書の左側に書かれた左衛門尉政元という人物。末尾の「奉」は、「時政様の指示を奉って、この文書を出しています」という意味。左衛門尉政元の素性は不明ですが、北条家の被官(上級武士に従属する武士)で、家政の長である執事か、様々な政務を担当する奉行人のようです。宛先は東大夫(三嶋社神主家)で、内容は、東大夫からの訴えを受け、時政が下した裁定を通達したものです。

当時の神主家は東大夫家と西大夫家に分かれ、東大夫家が一宮三嶋宮を、西大夫家が二宮八幡宮を管掌しました。この20年ほど前の元暦2年(1185)4月20日、源頼朝は時政に指示し、河原谷郷・御園郷(三島市)を東大夫家の支配として、その収入をもって6月20日の臨時祭にあて、糠田郷・長崎郷(伊豆の国市)を西大夫の支配として、その収入をもって8月の放生会にあてました(『吾妻鏡』)。頼朝は、東・西大夫家に、それぞれ管理する所領をわけ、祭儀を分担させたのです。

時政の文書からは、頼朝の時代に東大夫と並び立つ権限をもった西大夫が、さらに東大夫の権益を侵す動きをしていたように見えますが、時政が下した裁定は、西大夫の動きを押さえ、東大夫の権益を回復しようとするものです。一項目の御戸張、二項目の鎔取という用語は、祭儀と関わる役割と結びつくようですが、文言からは職務担当者を表すようでもあり、職分・権利を表すようでもあります。どちらにしろ、東大夫の権益保護を目的とした裁定であることは間違いありません。西大夫の越権ともいえる動きは、かつての頼朝による所領・祭儀の分立指示が後押しとなったのかも知れません。

さて、北条時政は初代鎌倉殿源頼朝の舅であり、二代目鎌倉殿となった源頼家の外祖父です。源家の重要な後援者であり、幕府の要人であることは間違いありません。頼朝の挙兵時にはその側近の様な働きもみられ、源義経の離反に際しては、京都に駐在し諸政務を取り仕切りました。しかしその後は、幕府の中樞で政務に携わるような様子がありません。頼朝のもとで、一部の側近御家人と、中原(大江)広元ら京下りの官人たちによる政務処理の体制が整えられたことも理由として考えられますが、鎌倉殿頼朝の義父という立場にありながら、幕府内で縦横に活躍する姿は見えてきません。

しかし、正治元年(1199)正月に頼朝が死去すると、変化が見られます。同年4月、新鎌倉殿頼家の裁断事に、中原広元ら4名の官僚御家人たちとともに、時政ら9名の武官御家人が関与する仕組みが作られます。いわゆる十三人の合議制と呼ばれる体制です。この体制は合議ではなく、鎌倉殿への取り次ぎ窓口を13人に限定したものであるという指摘もありますが、いずれにしろ頼家の幕府運営を補完する制度となるはずでした。しかし、政治的な安定は訪れず、程なく鎌倉殿を巻き込んだ御家人間の権力闘争が本格化します。

まず正治2年(1200)正月、鎌倉殿の側近の地位を固めていた梶原景時が、他の御家人の怒りを買って滅亡。建仁3年(1203)9月、頼家の乳母父比企能員が時政に謀殺され、一族も滅亡。直後に側近政治を志向した頼家も



元久2年2月29日付 北条時政袖判 政本奉書

失脚し、翌元久元年(1204)に修禅寺で殺害されます。さらに元久2年(1205)6月、時政は武蔵国の支配を巡り対立した畠山重忠一族を滅亡させ、また娘婿の平賀朝雅を次期将軍、鎌倉殿へと推戴する動きを見せます。これは今回の文書が発せられた時期に符合します。東大夫は、時政の威勢を利用するかの如く、亡き頼朝の威勢を背景に力を伸ばした西大夫の影響力を排除したといえるのかも知れません。幕府内の力関係が、この裁定を通し透けて見えるようです。(郷土資料館運営協議会委員・奥村徹也/三嶋大社宝物館 学芸員)

東大夫殿

(二〇〇五年)

元久二年二月廿九日

左衛門尉政元 奉

執達のごとし。

以前両条仰せの旨此のごとし。よつてもつて

子細を注進すべきなり。

なすべきなり。

一、鎔取の事。同じく西大夫として自由に任

せ、其の沙汰致すと云々。事もし実たらば、

尤も不便。早く先例を守り、東大夫の沙汰と

なすべきなり。但し、此の上由緒あらば、各

自由を任せ、己が用せしむの由、これを聞こ

しめす。事実ならば、穏便ならざるか。今よ

り以つて後においては、西大夫自由の沙汰を

停止し、先例に任せ、宜しく東大夫の沙汰と

なすべきなり。

一、三嶋宮の御戸帳は、宗と東大夫の沙汰た

るべきの処、西大夫として東大夫に触れず、

自由を任せ、己が用せしむの由、これを聞こ

しめす。事実ならば、穏便ならざるか。今よ

り以つて後においては、西大夫自由の沙汰を

停止し、先例に任せ、宜しく東大夫の沙汰と

なすべきなり。

一、鎔取の事。同じく西大夫として自由に任

せ、其の沙汰致すと云々。事もし実たらば、

尤も不便。早く先例を守り、東大夫の沙汰と

なすべきなり。但し、此の上由緒あらば、各

自由を任せ、己が用せしむの由、これを聞こ

しめす。事実ならば、穏便ならざるか。今よ

り以つて後においては、西大夫自由の沙汰を

停止し、先例に任せ、宜しく東大夫の沙汰と

なすべきなり。

(花押)

三島の歴史とジオポイント・22

—天泊神社—

天泊神社は伊豆箱根鉄道・三島二日町駅の南約1km、大場川右岸に立地する中集落の北端、中4番地の1に南面して鎮座しています。祭神は奈良の春日大社と同じ天児屋根命です。

平成4～5年に行われた神社北側一帯の発掘調査では、古墳時代（4世紀～7世紀末）9軒、奈良時代（8世紀代）4軒、平安時代（9世紀前半～10世紀前半）8軒の住居跡が出土し、中集落一帯には1600年以上前から現在まで、人々が住み続けていることが確認されました。

神社の創建年代は不明ですが、万治元年(1658)再建の棟札が確認されています。1806年に作成された「根府川通見取絵図」には「天白之森」として描かれおり、古くから「天白権現」の呼び名で当地の氏神として祀られています。

神社入り口には昭和10年に設置された花崗岩製の社名碑「村社天泊神社」があり、「村社」の部分が戦後に塗りつぶされず、そのままなのは珍しいです。

参道入り口の左右には、嘉永5(1852)年に奉納された一対の石燈籠が設置されています。長岡凝灰岩上部層製（数百万年前の火山灰が海底に堆積した砂質凝灰岩。現・伊豆の国市北江間の石切り場から産出）です。竿が寸詰まりで三味線の撥の形をした「撥型燈籠」です。基礎には四つ足が付いています。同じ形をした燈籠は三島市や清水町の寺社で9基確認されており、設置年代は江戸後期(1844年)から明治時代(1910年)にかけてです。この時期に流行したようです。

2基の燈籠は設置後、安政・関東・北伊豆地震などで何度も倒れたようで、宝珠から竿にかけてあちこちが破損し、火袋は作り直してあります。破損の都度、氏子の方々によって修復され現在でも非常に良い状態で保存されています。

花崗岩製の参道を進むと、昭和62年に設置された石鳥居があり、正面の拝殿前に置かれた玄武岩質製の賽銭箱に硬貨を投入すると、チリリリーンとさわやかな音がします。ぜひ一度聞いてください。

拝殿の左手に「神代楠」のご神木が置かれています。昭和62年に神社近くの大場川改修工事の際に出土したものです。保存状態が良いので流木ではなく、立木に近い状態で大場川の流路変化によって埋没したものだと思われます。説明板には「弥生時代」のものがありますが、科学的な年代調査は行われていないようです。

隣り合わせて向山稻荷社、鯨社、熊野社、左宮司社、稻荷社が境内社として祀られています。

当社は大場川堤防上の道に接しているため、散歩の途中に立ち寄りやすく、いつ訪れても中集落の氏子の方が境内清掃を行っています。「村の鎮守様」の様子が理解できる神社です。



正面から見た天泊神社



「神代楠」と境内社

(郷土資料館運営協議会委員・増島淳)

寄贈・購入資料の紹介

令和3年2月から令和3年5月までに、次の方々から貴重な資料をご寄贈いただきました。お礼申し上げます（お名前の掲載を希望されていない方は個人等としてあります）。

●寄贈資料

寄 贈 者	資 料 名	点 数
吉田 詩子 氏	そろばん	2点
個人	セット絵葉書「伊豆の大震災」	8枚
三島市子ども保育課	西幼稚園旧蔵資料（アルバム、紙芝居、リレーバトン、鉢巻ほか）	100点
土山 早規子 氏	『増訂豆州志稿』、畔柳對水「小浜池之図」、古写真、絵葉書、古文書（近世）、花鳥煉乳場関係史料（金鶏ミルクラベル、ホルスタイン種牛輸入関係）	195点
個人（三島市）	裁縫雛形、新聞（明治時代）、引札	37点
三島市商工観光課	古写真（ネガ、ポジ、スライドマウント）一式、三島市内観光パンフレット、芝切地蔵尊関連資料、絵葉書	52点
榊原 公幸 氏	商店街商店チラシ（大正～昭和20年代頃）	70点
近藤 尚也 氏	鉄瓶（大正14年国勢調査記念）	1点
鈴木 康男 氏	指物関係資料	一式

●酪農・練乳製造関係資料（土山早規子氏寄贈）（写真上）

三島の花鳥兵右衛門は、明治時代、牧場経営を行いアメリカから乳牛を輸入して地域に酪農を広めたほか、「花鳥煉乳場」を設立して日本トップクラスの人気商品となった練乳「金鶏煉乳」を製造するなど、地域の近代化を語る上で欠かせない人物です。



今回、花鳥氏の実子とともに事業にたずさわった津田守三の家に伝わった資料が数多く寄贈され、その中には酪農・乳加工業に関する重要な資料が多く含まれていました。中でも「金鶏煉乳」ラベルは、花鳥煉乳場の主力商品にもかかわらず、花鳥家文書（当館蔵、市指定文化財）にも含まれていなかった新資料です。

●楽寿園パンフレット（三島市商工観光課寄贈）（写真中）

市立公園楽寿園は、明治時代に宮家の別邸として整備されて以降、朝鮮王族、海運王と貴顕の人々が所有してきました。昭和27年に市立公園としてオープンして以降は、多くの市民に親しまれています。楽寿園の歴代パンフレットには、現在より敷地が狭かった時期、ゾウやキリンなどの大型動物がいた時期、遊園地なみの大型遊具を誇った時期など、これまでの楽寿園の歩みがつまっています。



●商店街商店チラシ（榊原公幸氏寄贈）（写真下）

商店のチラシは、その時代に人気のあった商品やデザイン、価格など世相を反映し、時代の空気をも伝える立派な歴史資料です。しかし元々一時的な目的のために印刷されるものであり、後世に残るものはわずかです。今回寄贈を受けたものは戦前～昭和20年代ごろのチラシで、「支那事変」「平和条約締結」など世相を反映したものもあり、戦前・戦後の激動の時代における市民の生活を伝える貴重な歴史資料といえます。



令和2年度 郷土資料館事業報告

●企画展

展示名	実施期間	主な展示内容	入館者数
「浮世絵でたどる東海道五十三次と四つ辻のまち三島」	前期 4月18日(土) ～ 6月28日(日) 後期 8月1日(土) ～ 8月30日(日)	歌川広重の浮世絵の複製版である「保永堂版『東海道五拾三次』絵巻」(トッパンフォームズ社制作)を中心に、浮世絵で東海道を紹介した。 (4/19(日)～5/22(金)臨時休館)	前期 2,422人 後期 5,700人 計 8,122人
「三島宿のジオと歴史 —写真とマンガで見る—」	7月11日(土) ～ 7月26日(日)	静岡県地学会東部支部との共催で、三島宿の歴史とジオパークの見どころを紹介した。	4,139人
「採る・捕る・獲る —富士・沼津・三島の狩猟・採集—」	9月5日(土) ～ 10月18日(日)	3市共同企画展として、山・川・海で行われてきた狩猟・採集のようすを考古資料・民俗資料をとおして紹介した。	6,308人
「三島を襲った災害と復興」	10月31日(土) ～ 2月28日(日)	三島における江戸時代から戦後までの火災・風水害・地震などの災害による被害と復興の様子を紹介した。	17,218人
関連事業：ふるさと講座2回、講演会1回、防災講座1回			
「新規収蔵品展」	3月20日(土) ～ 6月6日(日)	安久秋山家文書、戦争関係資料、馬具など職人道具、古写真・絵ハガキなど、過去3年間に寄贈や購入により収集した収蔵品を紹介した。	9,437人

- その他の展示 三嶋暦師の館、西小学校郷土資料室、生涯学習センター日本文学資料館「茂吉をめぐる歌人たち」
三嶋暦師の館では耐震補強工事に伴い、展示内容の一部リニューアルを行った。

●教室・講座・講演会

講座名	開催日	人数	講座名	開催日	人数	
郷土教室	江戸時代の三島宿	8月19日(水)	22人	昔のどうぐ	11月23日(月・祝)	85人
	昔のあそび	9月5日(土)	51人	ワラ細工	12月5日(土)	22人
	江戸時代の三島宿	10月3日(土)	42人	リリアン編み	1月23日(土)	11人
	楽寿園の自然	11月7日(土)	48人	ブンブンゴマづくりと紙芝居	2月6日(土)	52人
	楽寿園の自然	11月15日(日)	65人	遊んで学ぼう富士山デー	2月23日(火・祝)	63人
	江戸時代の三島宿	11月21日(土)	10人	江戸時代の三島宿	3月6日(土)	18人
郷土教室実施回数 12回、参加者 489人						
講座	ふるさと講座 北伊豆の災害現場を訪ねて① 狩野川放水路見学	11月9日(月)	9人	ふるさと講座 北伊豆の災害現場を訪ねて② 市内災害関連スポットめぐり 講師：齋藤幸蔵氏(運営協議会委員)	11月9日(月)	7人
講座名	開催日	人数	講師等			
講演会	企画展関連講演会「三島の自然災害」	12月12日(土)	21人	増島淳氏 (静岡県地学会東部支部長)		
その他	古文書講座「はじめての古文書」	10～3月のべ7回実施	受講者22人のべ82人	関守敏氏 (郷土史研究家、伊豆史談会幹事) (コロナ禍のため最終回を令和3年4月に持ち越し)		
	防災講座「大規模地震を体感しよう」	2月13日(土)	139人	協力：危機管理課 起震車による地震体験		
文化財ボランティア活動						
◆石造物調査の会 年間4回実施 延べ44人参加 毎月1回、大場地区(完了)、中島地区(継続)						
◆古文書整理の会 年間5回実施 延べ51人参加 毎月1回、的場贄川家文書(近世)の整理(継続)						

●**団体見学**

20件 1,101人（市内小学校12件、市外小学校2件、その他6件）

●**資料の収集、保管状況**

令和2年度末現在 収蔵資料総数 45,841点（民俗7,073点、歴史37,853点、美術878点、自然37点）

令和2年度新規受入資料 18件（内訳：寄贈16件、購入2件）

●**刊行物**

「郷土資料館だより」127～129号

『三島宿関係史料集』11（三島宿問屋場の文久3年御用留の一部を解説）

『三島市郷土資料館所蔵 的場贅川家文書仮目録3』（近世資料の一部を目録化）

『三島の石造物2 大場』（大場地区の石造物95件を掲載）

『三島市郷土資料館研究報告』13

●**令和2年度 開館日数283日 入館者数42,605人**●**新型コロナウイルス感染症流行による臨時休館、事業中止等****(1) 臨時休館、施設における主なコロナ対策等**

4/19(日)～5/22(金) 臨時休館

4/16(木)に全国に緊急事態宣言が出されたことを受け、4/18(土)に翌日から宣言の終期にあたる5/6(水・振休)までの休館を決定した。その後、宣言が5/31(日)まで延長される見込みとなった時点で5/31(日)まで休館を延長し、さらに、緊急事態宣言の解除が前倒し（静岡県などは5/14(木)）となったため休館期間を5/22(金)までに短縮した。（楽寿園の臨時休園は4/19(土)～5/17(日)）

5/23(土)～6/28(日) 1階企画展示室のみ開館、2・3階常設展示室は閉鎖

6/30(火)～ 常設の体験メニューやタッチパネル等の使用を中止した上で2・3階展示室を再開

12/8(火)～ 入館者の体温計測、入館者情報の収集を開始

(2) 事業の中止等

令和2年3月～9月 原則、すべての主催事業を中止または延期

自主活動サークルの古文書入門講座も9月まで中止、おなじく自主活動サークルの古文書読習会は6月まで休止

郷土資料館ボランティアの活動も原則中止（9/8(火)にグループ代表者による会議を1回再開したのみ）

令和2年12月～3年2月 流行の第3波により、一部事業の中止・内容変更

①**郷土教室** 4～9月の10回を中止、8/22・9/5に試行の上10月から適宜感染症対策や内容変更をして再開

②**ふるさと講座** 5月実施予定のジオ・ツアーを中止に

③**ミュージアム・フェスタ** 10月実施予定のところ、準備期間がないため中止

④**古文書整理の会** 4～9・1月の定例会7回分を中止

⑤**石造物調査の会** 5～9・1・2月の定例会6回分と1月の大場地区石造物調査報告会、計8回分を中止

⑥**古文書講座「はじめての古文書」** 当初、7～12月・全6回の開催予定の所、10～3月に変更して実施
その後の第3波の際には1月分を中止、2・3月は午前・午後に分けて実施。未消化の1回分は翌年度の4月に実施。

このように、令和2年度は多くの事業がコロナ禍の影響を受けました。中止せざるをえなかった事業は年間で26事業となり、その他の事業も延期や規模縮小、内容変更などの上で実施することになりました。

企画展「新規収蔵品展」報告

●**開催期間** 令和2年3月20日(土)～6月6日(日)

●**資料点数** 87点 ●**入場者数** 9,437人

新型コロナウイルス感染症の流行が収まらず、東京都などでは緊急事態宣言が発出されるなど厳しい社会情勢下での開催となりました。それでも、過去の災害の写真や古い町並みを写した絵葉書に関心を持たれる方、パソコン（マッキントッシュ）やフロッピーディスクを見て新しいものも収集対象になることに気づいていかれる方などがあり、多様な展示資料のなかから来館者それぞれの関心に従って見学していただくことができました。



郷土教室の報告

郷土資料館では、楽しみながら学べる郷土教室（体験イベント）をボランティアさんと一緒に開催しています。2021年3月から6月までに行った事業をご紹介します。

日 程	郷 土 教 室	内 容	参 加 者
3月6日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり体験と展示ガイド	18人
5月1日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり体験と展示ガイド	29人
5月5日(水・祝)	こどもの日体験デー	鯉のぼり・カブトの紙工作	32人
5月29日(土)	古代の暮らし	勾玉づくり、火おこし体験、土器あてクイズに挑戦	77人
6月5日(土)	昔の暮らし	懐かしい道具を見ながら、昔を思い出してみる(回想法)	43人



こどもの日体験デー



火おこし体験



土器あてクイズ

これからの郷土教室の予定

日 程	郷 土 教 室	内 容
8月7日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり体験と展示ガイド
8月11日(水)	楽寿園の自然	楽寿園の木や枝を使った工作
8月21日(土)	江戸時代の三島宿	立版古づくり体験と展示ガイド
8月25日(水)	紙漉き体験	紙を漉いてハガキをつくる 協力：三島ゆうすい会
9月4日(土)	昔のあそび	ブンブンごまづくり、コマ・けん玉あそび
10月2日(土)	江戸時代の三島宿	旅人衣装を着る、展示ガイド
10月30日(土)	昔のあそび	ドングリごまづくり、コマ・けん玉あそび

今年も楽しい体験イベント盛りだくさん！夏休み中もやってるよ！郷土資料館に遊びに来てね！

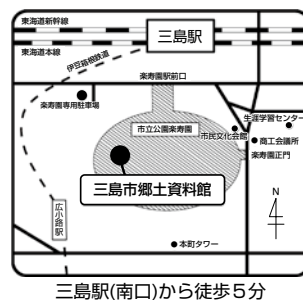
令和3年度職員紹介

館長：平林研治 職員：水口政美 柿島綾子 笹山曜子 保科桃子

よろしくお願ひします。

郷土資料館のご案内

〒411-0036 静岡県三島市一番町19-3 楽寿園内
 TEL 055-971-8228 FAX 055-971-6045
 開館時間 午前9時～午後5時(4月～10月)
 午前9時～午後4時30分(11月～3月)
 休館日 毎週月曜日(祝日のときは翌平日)、
 年末年始
 入館料 無料(ただし楽寿園入園料として別途
 300円がかかります。15歳未満は無料、
 学生は学生証提示にて無料。)



郷土資料館だより

vol.44 No.1(第130号)
 発行日 令和3年7月15日
 (年2回発行)

編集 三島市郷土資料館
 発行 三島市教育委員会

E-mail : kyoudo@city.mishima.shizuoka.jp
 URL : http://www.city.mishima.shizuoka.jp/kyoudo/

